

ロール
モデル
07



泉 美貴

医学科
社会医学部門
医学教育学分野
教授

川崎医科大学卒業
東京大学(乙)博士(医学)
2009年より現職

研究テーマ (一言でいうと)

医学教育学の領域では主に、女性医師の離職防止と、卒前のカリキュラムの違いに基づく卒業後のキャリアの差異を研究しています。病理医としては、皮膚科を中心とした病理診断学に関する研究を続けています。

大変だったこと

これまで会議でも委員会でも紅一点であることが多く、ストレスでした。本学も数年前まで女性教授は一人もいませんでした。ヒトは望みが少しでもあれば頑張れますが、可能性がゼロであれば能力のある人でも早期に努力を諦めてしまうのではないのでしょうか。能力や業績に伴いポジションが与えられる男性と違い、女性は声を上げなければ機会を得ることは難しいといえます。能力が高く、努力した多くの女性医師が正当に評価されない現実を見聞きしながら、努力を続けることは大変でした。また、13年前に長女を出産した時に、本学の医師で育児休業制度を利用した人がいなかったことから、前例を作るために取得しました。ロールモデルとなったことは良かったのですが、6か月の育児休業にも拘わらず、せっかく20年間余り蓄えた仕事の経験、勘、体力、気力などのすべてが衰えてしまい、休んだことを大変後悔しました。出産などによる休職後はできるだけ早く元のポジションに戻らなければいけないと強く感じました。

研究の魅力、これからの夢

医者であり教師である現状を幸せだと感じています。皮膚組織を顕微鏡で診断していると毎日新しい発見があります。これまで得た知見を、教科書なり論文として少しでも多く残しておきたいです。医学教育者としては、「女性医師はすぐに辞めるからだめだ」と女性医師全員が期待されないという現実を何とか変えたいと思っています。実際にはどれだけの女性医師が離職しているのかを、エビデンスとして科研費などを得て研究し証明することなどを通じ、女性医師の活躍を促していきたいです。それから、世界的にみると日本の医療は最先端かもしれませんが、医学教育の点では遅れています。本学に国際認証に則ったカリキュラムを導入し、将来は本学の医学教育を日本一にしたいと思っています。

良い仕事をして、評価を高め、 ポジションを得ることを意識する

未来の女性研究者への応援メッセージ

**「泉の法則」—医師として一人前になるためには、
卒後の数年間は必死で仕事をする**

誰もが、自分の能力を最大限に発揮し、授かった教育を社会に還元する責務があります。まず、卒業後最初の5年間は必死で仕事をしてください。その時期を逃すと、どんな仕事であれ一流になることは困難で、私はこれを「泉の法則」と呼んでいます。どんな仕事も最初は「丁稚」ですから辛いことも多いですが、言い訳せずに働き、雑用もこなしているうちに実力がつき、ついには仕事が楽しくなります。研究でも診療でも一流を目指してください。もちろん結婚や子育ては幸せな経験です。仕事との両立は充分に可能ですよ。



これまでの道のり

中学の国語か社会科の教師になるつもりでしたが、高校3年生の4月に父から「医者になれば、教師にもなれるぞ」と言われ、その瞬間に進路を医学部に決めました。

私は中学校から大学を卒業するまで卓球部に所属し、西医体では600連勝くらいしました。卓球を通じ、最初に良い指導者に就き恵まれた環境にいると、自ずと高いレベルに到達できることを学びました。そこで大学を卒業するときに、医師として教育熱心でレベルの高い指導者の元で学びたいと考え、当時最も尊敬していた病理医のおられた病理診断学を専門分野に決めました。20年余り病理診断学に専心していましたが、医学教育分野へのお誘いを受けたのが転機になりました。教師になりたかった夢が叶い、皮膚病理診断学とともに、教育を専門にしています。

研究を続けられた モチベーション

NTT東日本関東病院(元関東通信病院)の病理診断科に勤務していた当時、指導者から「おまえは則天武后になれ」と言われました。何のこともかすぐには判らず驚きましたが、「上を目指しなさい」と言ってもらえたのだと考え、今振り返るとキャリアを考える上で大きな力になったと思います。それ以来、良い仕事をして、評価を高め、ポジションを得るということを意識するようになりました。